

平成26年度

東京都美術館年報

Tokyo
Metropolitan
Art Museum
Annual Report
2014



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

沿革

東京都美術館のロゴマーク



平成24年4月のリニューアルに合わせて、東京都美術館のシンボルとなるロゴマークが誕生した。このロゴマークは、世界的に活躍するデザイナー・吉岡徳仁氏によるもので、「誰にでもわかる明快さ・親しみやすさ」「シンボリックなイメージ」「歴史と未来の融合」「日本をイメージ」といったキーワードをもとに制作された。

2種類のロゴマークには、90年近い当館の歴史や重厚感と同時に、未来へ向けた可能性を感じさせる軽やかさが表現されている。美術館そのものを表すときは色のついた立方体のもの、各事業を表すときは線で描かれた透明性のあるもの、と使い分けている。長く愛され、世界に通用する「100年先の東京都美術館」を見据えた、シンプルで色褪せない魅力にあふれたデザインとなっている。

注)

東京都美術館のロゴマークは公益財団法人東京都歴史文化財団の登録商標である。[参考：商標登録第5520726号、第5520727号]

大正10(1921)年	3月	北九州の実業家・佐藤慶太郎氏から100万円の寄付
大正15(1926)年	5月	東京府美術館開館(設計は岡田信一郎。開館記念日5月1日)
昭和18(1943)年		都制施行により東京都美術館と名称変更
昭和40～42 (1965～67)年		建物老朽度調査を実施
昭和43(1968)年		美術館建設準備委員会を設置
昭和47(1972)年		新館建設工事着工(設計：前川國男建築設計事務所)
昭和50(1975)年	3月	工事完了
	9月	新館開館。貸館中心だった事業を自主事業として企画展の開催、美術文化事業、美術図書室の運営等を実施。作品収集にも力を注ぐ
昭和52(1977)年	3月	旧館取り壊し工事及び旧館跡地造園工事完了
平成6(1994)年	4月	全収蔵作品及び美術図書資料を東京都現代美術館に移管。以降、報道機関との協力による共催展と、美術団体等による公募展を活動の柱とする
平成7(1995)年	3月	東京都現代美術館開館
平成8(1996)年	4月	東京都教育委員会から(財)東京都教育文化財団(後に東京都生涯学習文化財団へ名称変更)へ管理運営が委託
平成10(1998)年	9月	ミュージアムショップがオープン
平成14(2002)年	4月	(財)東京都生涯学習文化財団から(財)東京都歴史文化財団へ管理運営委託先を変更
平成18(2006)年	4月	(財)東京都歴史文化財団が指定管理者として3年間管理運営を受託
	5月	開館80周年記念祭を実施
平成21(2009)年	4月	(財)東京都歴史文化財団が指定管理者として8年間管理運営を受託
平成22(2010)年	4月	(財)東京都歴史文化財団が公益財団法人へ移行施設設備の老朽化のため大規模改修工事(設計：前川國男建築設計事務所)を実施。約2年間休館
	5月	リニューアル準備室を旧坂本小学校内(台東区下谷)に開設
平成23(2011)年	7月	東京都現代美術館から彫刻作品12点、書作品36点を再移管
	11月	ロゴ・シンボルマークを制定(デザイン：吉岡徳仁デザイン事務所)
平成24(2012)年	3月	博物館法による博物館相当施設に指定
	4月	リニューアルオープン(企画棟を除く)。ユニバーサルデザインを採り入れ、展示室の環境改善を行い、レストランやショップを充実。新たな管理運営方針のもと、多様な自主企画の展覧会やアート・コミュニケーション等の事業を展開
	6月	リニューアル記念特別展「マウリッツハイス美術館展」オープン(企画棟を含め全面オープン)

3

アート・コミュニケーション事業

人と作品、人と人、人と場所とをつなぎ、アートを媒介とした新たなコミュニケーションを育む活動を展開。美術館に集まる多種多様な人々とのコミュニケーションを大切に、そこから創出される新しい価値観を社会に届けることで、アートを介したコミュニティを育んでいくことを目的としている。

とびらプロジェクト

Museum Start あいうえの

学校連携

展覧会関連プログラム

美術館たんけんツアー・建築ツアー

アクセス・プログラム

調査・研究プロジェクト

アート コミュニケーション プログラム

アートを媒介として、人々のつながりや、新たなコミュニケーションを育む活動をしています。美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、様々な参加型プログラムを実施しています。

*参加方法等の詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。



各展覧会に関連した講演会・レクチャー

学校団体と連携した鑑賞授業

ファミリープログラム

建築ツアー

障害のある方のための特別鑑賞会

ティーチーズ・デイ (先生のための研修プログラム)

学校用教材の貸出

インターンシップ

展覧会ジュニアガイド

地域



Illustrated by Mai Kuriyagawa (TURBEE DESIGN)

とびらプロジェクト

東京都美術館 × 東京藝術大学

東京都美術館と東京藝術大学が連携して行うアートを介したコミュニティを作るプロジェクト。一般公募のアート・コミュニケーター「とびら」が学芸員や大学教員らと共に活動。美術館に集う多様な人々と作品や場をつなぐコミュニケーションから新しい価値を創出し社会に届けます。



とびらプロジェクト 検索 <http://tobira-project.info>

museum start

あいうえの

上野公園に集まる文化施設が連携し、子供たちの「ミュージアム・デビュー」を応援。子供と大人が学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」です。年間を通じて、小・中・高校生が参加できるプログラムをおこなっています。

この事業はアーツカウンシル東京の一環として実施します。
主催：東京都、東京都美術館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京藝術大学

あいうえの 検索 <http://museum-start.jp>

Design : Kazuya Kondo

とびらプロジェクト

平成26年度で3年目を迎えた、アートを介したコミュニティづくりのプロジェクト。当館と東京藝術大学(以下、藝大)が連携し、市民と共に美術館を拠点にオープンで実践的なコミュニティの形成を目指して活動している。一般公募の上選考を経て集まった第3期アート・コミュニケータ(愛称:とびラー)は、第1・2期とびラーと合流し、150人が活動。とびラーと、学芸員と藝大の教員は対等に対話を重ねながら基礎講座や実践講座を経て、美術館においてさまざまなプログラムを実施した。

とびラーの活動はボランティアな活動である。しかし、「アートを介してコミュニケーションを促進する人」という、その人の「働き」が明解であることが名称として最も重要と考え、とびラーをボランティアとは呼んでいない。とびラーは美術館や文化財を介して新たなコミュニケーション回路をつくる役割を持ち、学びと実践をくり返しながらプロジェクトを推進している。とびラーの任期は3年のため、26年度末には、任期満了のとびラーが初めて輩出された。

プログラム運営のアドバイザーとして日比野克彦氏(東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授)、西村佳哲氏(働き方研究家/リビングワールド代表)、森司氏(東京文化発信プロジェクト室地域文化交流推進担当課長、現:アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長)が関わっている。

実施プログラムは事業実績一覧(P59~P62)を参照。ウェブサイト[<http://tobira-project.info/>] (アクセス数/146,618)

平成26年度 とびらプロジェクトの1年

平成25年度

- 1月 とびラー3期生募集の広報開始
- 2月 とびらフォーラム(説明会) / 応募受付
- 3月 書類選考(1次) → グループ面接(2次) → 第3期とびラー決定通知

平成26年度

- 4月 基礎講座(～6月) 隔週土曜日6回(10～15時) 全24時間
とびラボ(年度末までにのべ273回開催)
- 5月 『Museum Start あいうえの』プログラム開始
- 6月 実践講座(～2月)
鑑賞実践講座 年間7回
アクセス実践講座 年間5回
建築実践講座 年間6回
- 12月 とびラー4期生募集広報開始

- 2月 とびらフォーラム(説明会) / 応募受付
- 3月 書類選考(1次) → グループ面接(2次) → 第4期とびラー決定通知
開扉会(かいびかい:任期満了とびラー輩出)

応募条件

- 1) 18歳以上の方(高校生を除く)で、日本語で日常会話ができる方
- 2) 美術または美術館に関心があり、積極的に学び、活動意欲のある方
- 3) 東京都美術館のミッション(使命)を理解し、共感して活動できる方
- 4) 4～6月の基礎講座全6回に原則としてすべて参加可能な方
- 5) 7月以降、月2回以上の活動に参加可能な方
- 6) 電子メールでの連絡が可能な方(パソコンでのメール送受信が可能な方)

活動条件

- 1) アート・コミュニケータの活動は無償。交通費、謝礼等の支給はなし。ただし、講座及び随時開催される研修に無料で参加可能。
- 2) アート・コミュニケータの登録期間は1年間。次年度以降は本人と美術館双方の合意のうえ、登録更新が必要。
- 3) アート・コミュニケータの任期は最長3年間とする。

平成26年度(3期生)の応募状況

185人からの応募があり、書類審査、面接を経て、45人が第3期とびラーに決定。約4倍の倍率であった。この45人と第1・2期とびラー105人とで3年目のとびらプロジェクトが始動した。

とびらプロジェクトの事務局

平成25年度に引き続き、当館のプロジェクトルームを拠点として、藝大の伊藤達矢特任助教(とびらプロジェクト・マネージャ)と近藤美智子特任助手(とびらプロジェクト・コーディネータ)、大谷郁(とびらプロジェクト・アシスタント)が運営の実務を担当した。



とびラー募集(チラシ)

とびラーのすがた

第3期とびラーの年齢分布は10代9%、20代33%、30代15%、40代18%、50代16%、60代9%となり、20代から40代までで75%を占める。

第1・2期と合わせると、女性71%、男性29%の割合。年齢分布は10代3%、20代32%、30代21%、40代14%、50代18%、60代10%、70代2%。居住地区は東京都内が69%を占め、その他、埼玉、千葉、神奈川、茨城、山梨の近接各県からの参加があった。活動は平日、週末もあるため、それぞれの生活スタイルに合わせて各自が調整。月2回以上の参加が原則的な活動条件である。



基礎講座・実践講座

とびラーは「基礎講座」と「実践講座」を通して、当館のミッションと藝大からのメッセージ、とびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、とびラーとしての役割への理解を深めていく。

・基礎講座(4～6月の隔週土曜日10～15時/全6回)

当館を拠点として、アートや文化財を介しながら新たなコミュニケーションを作っていくための基本を学ぶ。現在の美術館活動はどのようなものか？ 対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは？ ホスピタリティとは？ など、具体的に参加形式で学ぶ。1年目のとびラーは全員必修。

第1回 オリエンテーション(全とびラー対象)

とびらプロジェクトを知る・語る

講師/日比野、西村、森、伊藤(達)、近藤、稲庭
ねらい：新規とびラーと、1・2期とびラーやスタッフらが複数の接点を持つ機会にする。コミュニケーションの中からとびらプロジェクトの特徴や課題を知る。

第2回 とびラー同士が学び合う構造を考える

講師/1・2期とびラー、伊藤(達)、近藤、大谷
ねらい：とびらプロジェクトの活動の柱となる「鑑賞」「建築」「アクセス」というキーワードを軸に、とびらプロジェクトで実施されてきた講座、実践

されてきたとびラボなどの活動を知る。また、とびラーととびラーが学び合う構造を考えていく。

第3回 「Museum Start あいうえの」を知る日

講師/1・2期とびラー、伊藤(達)、長尾、石井、石丸

ねらい：「とびらプロジェクト」と連動している「Museum Start あいうえの」について知る。「Museum Start あいうえの」の舞台である上野公園に集積するミュージアムを知る。

第4回 きく力について考える

講師/西村

ねらい：人の話を〈きく〉力を互いに学び合い、今年度のとびらプロジェクトにおけるコミュニケーションの礎とする。

第5回 作品を鑑賞するとは

講師/稲庭、河野、熊谷、伊藤(史)

ねらい：作品の鑑賞について理解を深める。

第6回 実践の計画を立てる

講師/西村、森、伊藤(達)

ねらい：複数人で話し合いの場をもち、アイデアを共有し、活層を作っていく上で大切なポイントを押さえる。

・実践講座(5月以降各講座ごとに適宜実施)

基本となる3つの柱に則した、より実践的な3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当、実際の現場で気付いた疑問なども振り返りながら、活動への理解を深め、コミュニケーション・スキルを高めていく。

A 鑑賞実践講座(モノと人を考える) / 全7回

講師/三ツ木紀英 (NPO 芸術資源開発機構 ARDA)、稲庭、河野



基礎講座(第3回)

- B アクセス実践講座(ヒトと人を考える) / 全5回
 講師 / 杉山貴洋 (白梅学園大学こども学部准教授)、
 林健太 (視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ)、
 広瀬浩二郎 (国立民族学博物館民族文化研究部
 准教授)、伊藤(達)、近藤、稲庭
- C 建築実践講座(ハコと人を考える) / 全6回
 講師 / 斉藤理 (山口県立大学准教授)、石丸、大谷、
 河野

オープン・レクチャー

「とびらプロジェクト」の一環として、とびラーおよびとびらプロジェクトに関心のある一般の方々を対象に、とびらプロジェクトオープン・レクチャーを実施した。とびラーが「アート・コミュニティの形成」について理解を深めるとともに、とびらプロジェクトに関心のある一般の方々にも発信する機会としている。

今年度は、福音館書店より出版されている絵本『キュッパのはくぶつかん』のノルウェー在住の原作者オーシル・カンスタ・ヨンセン氏をお招きし、「自分の感じ方や考え方を見つめ、伝えることの、根源的な楽しさや喜び」について語っていただいた。

とびらプロジェクトフォーラム

平成27年度第4期アート・コミュニケータ募集のための説明会(フォーラム)を開催した。2部構成になっており、第1部「クロストーク」では講堂において、「本気の気持ちが生まれる場」というテーマで森氏と稲庭がとびラーの活動を振り返りながらとびらプロジェクトのめざすものについて語り、続くパネルディスカッションでは現在進行形の「とびらプロジェクト」について設立から関わっているメンバー(日比野・西村・森・伊藤・稲庭)が「とびらスタイル」のキーワード」というテーマで、3年間培ってきた「とびらスタイル」とは何かをさぐり、今後の展望について語りあった。第2部はとびラーの活動拠点であるアートスタディールームを会場に「オープンスペース・カフェ」を開催し、「とびらプロジェクト」の活動拠点を公開。参加者同士がフランクに対話できるカフェや、普段の活動を知ってもらうための資料を用意し、パネリストやとびラーが来場者の率直な疑問にも対応した。のべ参加者数241人。

とびラボ

「とびラボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。様々なバックグラウンドを持つとびラーによる「この指とまれ式」→「そこにいる人がすべて式」→「解

散!また結成」の3ステップでオリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」はとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。年間のべ開催数273回。のべ参加者数1,431人。

主な「とびラボ」

とびらボードでGO!、紙芝居プロジェクト、とびリア、トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー、缶バッジプロジェクト、見学会、ヨリミチビジュツカン、楽園への手紙、卒展さんぽ、など。



とびらプロジェクトオープン・レクチャー(オーシル・カンスタ・ヨンセン氏)



とびらプロジェクトフォーラム(第2部)



平田オリザ氏によるとびラーのためのワークショップ



とびらプロジェクトオープン・レクチャー (チラシ)



トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー (とびらボ発プログラム)



藝大卒展さんぽ(とびらボ発プログラム)

とびらプロジェクトのコミュニケーション・デザインと活動の記録保存

とびラー同士は、実際に会って話し合ったり、プログラムを実施したりするのに加えて、メーリングリストとウェブ上の「掲示板(募集・告知機能)」と「ホワイトボード(報告機能)」をコミュニケーション補助ツールとして運用しながら活動を活発化させている。「この指とまれ式」で集まった有志のとびラーの活動は、プログラム実施までのプロセスや、実施後の振り返りなどの内容をそれぞれが自主的に記録し、ウェブ上にある「掲示板」や「ホワイトボード」に必ずアップロードすることによって、100人以上からなるとびラー同士が常に情報共有できるように設計されている。こうした記録は、活動のプロセスの共有の場となった後、アーカイブとしての機能も果たし、次の世代のとびラーがまたそれを参照できるようにつくられている。

3年目ゼミ

活動の最終年度となる3年目のとびラーを対象として、「3年目ゼミ」を開催した。3年目ゼミでは、日比野克彦氏、

西村佳哲氏、森司氏の3名の講師が、3年目となるとびラーと今後の活動の方向性について語る場を設けた。これを踏まえて、3年目のとびラーたちは、任期満了後の活動につながる企画の立案や実践に取り組んだ。ミーティング開催数24回、のべ参加者数182人。

3年目ゼミから生まれたプロジェクトは下記の通りである。

① knock-knock

東京都の児童養護施設の子どもたちを当館に招き、とびラーとともに対話を通じた鑑賞を行った。アートスタディールームでランチをするなど、子どもたちにとって美術館がより楽しく、身近になるような工夫がなされた。

② 視覚障害のある方との東京都美術館建築ツアー

「障害のある方のための特別鑑賞会」に合わせて、視覚障害のある方を対象として、当館の建築物としての魅力を伝えるツアーが行われた。「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」*の協力を得ながら、視覚障害のある方への配慮が繰り返し検討され、実施に至ることができた。

*視覚障害者と晴眼者が一緒にチームを組み、言葉を介してお互いに印象や感想を伝え合いながら美術を鑑賞するワークショップを実施する団体。「みえる」「みえない」という異なる価値観、生活文化を持つ人同士が一緒に新たなものの見方や楽しみ方をつくることを目的としている。

開扉会(かいびかい)

とびラーの任期は3年間のため、平成27年3月末に初の任期満了とびラーが輩出された。都美のとびらを開け続けてきたとびラーが次の世界に飛び立つ、送る会「開扉会(かいびかい)」を開催。館長と日比野氏からのメッセージと当館の最寄り駅である上野駅からの初乗り切符がセットされた「開扉の証」が授与された。任期満了とびラー数55人。



開扉会

Museum Start あいうえの

上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子どもたちのミュージアム・デビューを応援するプロジェクト。子どもと大人がフラットに学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」である。日本を代表する文化施設が歩いて回れる範囲に集まっているという上野公園の魅力を活かし、バラエティ豊かな文化施設が連携することで、学びのスケールを何倍にも広げている。

このプロジェクトの連携館は、上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館(五十音順)であり、東京文化発信プロジェクトの一環として行われ、当館と藝大が推進役となって実施している。ロゴ、連携各館のアイコンなどのデザインは、藝大教授である日比野克彦氏によるものである。また、美術館の「ピ」のように、館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカタブ」という造語をこのプロジェクトの「ひみつの呪文」としている。実施プログラムは事業実績一覧(P.59～P.62)を参照。ウェブサイト[<http://museum-start.jp>] (アクセス数/104,050)

とびらプロジェクトとの連動

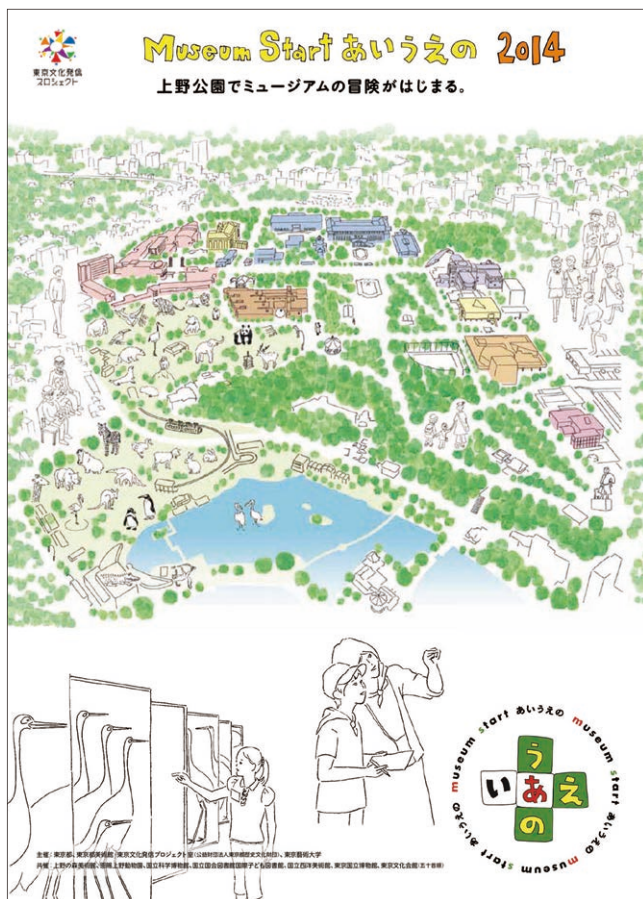
「Museum Start あいうえの」に参加する子どもたちが上野の豊富な文化資源と出会い、驚き、考え、発見するプロセスがより充実した体験になることを目指し、とびらプロジェクトのとびラーが積極的に活動、子どもたちの伴走役を務めた。大人と子どもが共に学び合う関係性を重要視している。

Museum Start あいうえの事務局

藝大の長尾朋子特任助手 (Museum Start あいうえのコーディネータ、～11月)、山崎日希 (Museum Start あいうえのコーディネータ、11月～)、石井理絵 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー)、伊藤史子 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー)、田村かのこ (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー、11月～) が当館のプロジェクトルームにて運営の実務を担当した。

Museum Start あいうえのウェブサイトの機能

「Museum Start あいうえの」のウェブサイトは、連携する9館の豊富な情報をまとめて見られるように設計されている。特に、一般的には展覧会情報に付随して掲載されていて探しにくい子どもたちやその家族が参加できるプログラムの情報が整理されており、そのことでミュージアムがより身近なものとなり、ワクワクするような情報へのアクセスを可能にすることを目的としている。連携各館の担当職員と緊密に連携をとりながら、子どもたちが各館へ出かけていきやすいよう、開催されるプログラムの情報が日々更新され、「冒険の行き先」ページで情報を得られるようにデザインされている。また、開催されたプログラムの活動記録がブログ形式でアップされている。



Museum Start あいうえの(チラシ)

ミュージアム・スタート・パックの配付(あいうえの日和)

より楽しくミュージアムを巡り、学ぶための冒険のツールとして「あいうえの学校」に参加した子どもたちに、ミュージアム・スタート・パックをもれなくプレゼントしている。パックは「ビビハドトガダブック」と「肩掛けパック」がセットになったもの。「あいうえの学校」に参加していなくても、興味がある子どもには使い方の説明を行った上で配付。配付会「あいうえの日和」は連携各館でも開催し、全45回開催し、のべ528人の子どもたちの手に渡った。また、あいうえの学校に参加し、パックを受け取った子どもと合わせると、平成26年度は2,472パックが子どもたちの手に渡った。



あいうえの日和(東京都美術館)

年間活動プログラム

・あいうえの学校

「あいうえの学校」は個人向けプログラムと学校向けプログラムで構成される、当館を拠点としたプログラムである。子どもたちが学校でも、放課後や休日に家族とでも美術館を楽しむことができるように、体験を通した学びの環境を用意した。

(個人向けプログラム)

・あいうえのものがたり

全4回／参加者数46人 対象／小学4年生～中学3年生
上野公園に集まるミュージアムへ冒険に出かけるプログラム。ミュージアムで大切にされている作品を学芸員ととびら、他の参加者と一緒にじっくり見て、たくさんの発見を促し、冒険の記録「あいうえのものがたり」を作成。冒険先は東京国立博物館総合文化展本館、国立西洋美術館常設展、国立科学博物館常設展、東京藝術大学大石膏室。



あいうえのものがたり(東京藝術大学大石膏室)

・Hi! Zai アートラボ

全2回／参加者数50人 対象／小学3年生～高校3年生
講師／大月ヒロ子(ミュージアム・エデュケーション・プランナー)

身の回りにあるありふれた廃材が、魅力ある創作の材料に変身していく「クリエイティブリユース」のワークショップ。廃材という素材に触れ、その由来を考えたり、分類したり、手を動かして、集まった仲間たちと豊かなコミュニケーションをとりながら作品を制作。日々の暮らしを楽しくするプログラム。



Hi! Zai アートラボ

・のびのびゆったりワークショップ

全6回連続プログラム／21人登録(メンバー制)

講師／杉山貴洋(白梅学園大学発達臨床学科准教授)

障害のある子どもたちを含むすべての子どもたちのためのアート・コース。手や体を動かしながら楽しくアートに触れる機会を創出。美術館の環境を活かし、すべての子どもたちがゆったりと鑑賞し、のびのびと表現できる環境を用意。6回とも同じとびラーが参加者に寄り添い、安心して手や身体を動かし、のびのび表現することができた。

※『すけっち』(テレビ東京)にて放映。記録映像制作。



のびのびゆったりワークショップ

・ティーンズ学芸員

全10回連続プログラム／17人登録(メンバー制)

上野公園にあるミュージアムをめぐり、学芸員と共に作品や文化財を丁寧に観察鑑賞し、そこから自分が気に入ったものを選び、自分の言葉で作品解説を作る長期連続プログラム。夏休み期間に5回、冬休み期間に3回、春休み期



ティーンズ学芸員

間に2回開催。具体的には、当館で開催されていた「メトロポリタン美術館 古代エジプト展 女王と女神」、「楽園としての芸術」展、野外彫刻、東京国立博物館東洋館、国立西洋美術館常設展を鑑賞し、最終的にはそれを録音してオーディオガイドを制作。東京大学と東京藝術大学の大学院生や、とびラーも一緒に活動し、様々な人の考えに触れながら、クリエイティブに物を見る力を磨くことを目的とした。記録映像制作。また、活動記録の発信を国立情報学研究所との共同研究(P58)の一環で行った。

・放課後のミュージアム

全12回／39人登録(メンバー制)／のべ参加者数331人

水曜日の午後、当館の一室を子どもたちのために開室。メンバー登録制で、クラブ活動のように自由に美術館に通い、美術館が様々な人との出会いの場、学びの場、そして居場所となるような環境を目指した。展覧会を鑑賞したり、廃材で何かをつくったり、そこに集まった人と話をしたり、上野公園の他のミュージアムに出かけたり。何をするかを、その場にいる美術館学芸員やとびラーなどの大人たちと共に考え、場をつくっていくことを試みた。記録映像制作。



放課後のミュージアム(恩賜上野動物園)

・ホームカミングデイ

全3回／のべ参加者数53人

「あいうえの学校」でミュージアム・デビューした子どもたちに、上野公園のミュージアムをずっと楽しみ続けてほしいという願いが込められたプログラム。前年度のプログラム参加者がもう一度ミュージアムに集まる日として開催。



ホームカミングデイ

(学校向けプログラム)

・スペシャル・マンデー・コース

全4回開催／参加12校、参加者数786人

対象／都内幼・小・中・高等学校

当館で開催される特別展の休室日(月曜日)に、学校単位で授業として来館する子どもたちのために展示室を特別にオープン。「事前→当日→事後」の学びをサポート。とびラーが子どもたちの声に耳を傾け、対話を通し、ゆったりとした環境で言語活動を重視した鑑賞を行うことを目的とした。また、希望する学校には貸切りバスが当館と学校を直行で結び、アクセスのハードルを解消した。



スペシャル・マンデー・コース

・平日開館コース

全18回開催／参加16校、参加者数732人

対象／都内小・中・高等学校

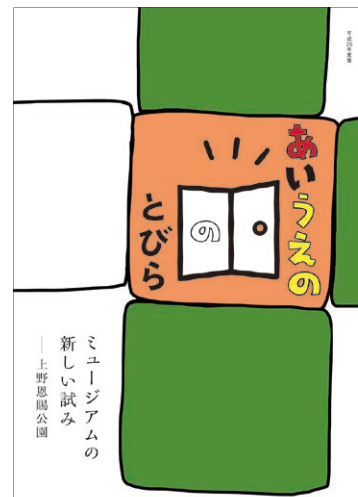
当館の開室日に「学校単位で来館したい」という希望や、「美術館で鑑賞授業をしたい」、という先生方に、教材貸出や事前準備から当日までのサポートを行い、通常開室日でも可能な、よりよい美術館体験を提案・実践した。(受入校数により、都外の学校も受入)



平日開館コース

「あいうえののとびら ミュージアムの新しい試み—上野恩賜公園」の発行

当館と藝大の連携事業「とびらプロジェクト」及び「Museum Start あいうえの」のコンセプトブック。活動の様子や人の声を中心に各プログラムを紹介している。



あいうえののとびら ミュージアムの新しい試み—上野恩賜公園(表紙)

学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに、学校との連携がある。平成25年度から「Museum Start あいうえの」が始まり、小・中・高校生向けのプログラムが拡充された（「Museum Start あいうえの」についてはP50～53参照）。そのためこの枠組では日常的な学校対応や教員のための研修会の開催、専門家向けの研修会への協力、インターンシップの受け入れ等を前年度に引き続き行った。また、学校団体来館の事前授業のための「鑑賞ボックス」を作成し、貸し出しを行った。このボックスには、ラミネート加工をしたA4サイズの図版カードやデジタル図版データ、ポストカードやフレームスタンド等が入っている。

平成26年度に実施したプログラムは以下の通り。（事業実績一覧はP.59～P.62参照）

ティーチャーズ・デイ

学校の教員（教科不問）を対象に、美術館をよく知り、上手に活用してもらうための研修プログラム。当館での活動の説明や具体的な学校関連事業の事例を紹介し、学校の夏季休暇時の開催では、「対話による鑑賞実践」や、「Museum Start あいうえの」で活用されている「ビビハドトカダブック」を実際に活用するワークショップを開催。4回の研修会を行い、のべ参加者数111人。

第1回 6月13日（金）18:00～19:00

アート・コミュニケーション事業、とびらプロジェクト、Museum Start あいうえの、学校連携事例紹介バルテュス展解説・鑑賞
「バルテュス」展をテーマとした「ビビハドトカダブック」を使ったワーク

第2回 8月8日（金）10:00～15:00

アート・コミュニケーション事業、とびらプロジェクト、Museum Start あいうえの紹介アートカードを使用したワークショップ
「メトロポリタン美術館古代エジプト展-女王と女神」をテーマとした鑑賞授業の体験

- アートカードで選んだ作品を展覧会会場でじっくり鑑賞。ビビハドトカダブックにスケッチし、気になった理由などを言語化する。
- 展示室の中で好きな作品を1つ決め、上記同様に言語化する。
- アートスタディールームで選んだ作品ごとのグループに分かれ、各々の「気づき」を共有レクチャー：美術館における言語活動の役割、個人

の鑑賞と複数の鑑賞の往復、鑑賞の場で起こる「価値観の共有」、対話から生まれる「共同の学び」

第3回 10月31日（金）18:00～19:00

アート・コミュニケーション事業、とびらプロジェクト、Museum Start あいうえの紹介美術館活用についての海外事例の紹介
アートスタディールームにて「群鶴図屏風」（高精細複製画）を参加者全員で鑑賞「ウフィツィ美術館展」紹介・鑑賞

第4回 3月20日（金）18:00～19:00

アート・コミュニケーション事業、とびらプロジェクト、Museum Start あいうえの紹介学校連携事例紹介
平成27年度学校連携プログラム紹介・展覧会ラインナップ紹介
「新印象派-光と色のドラマ展」紹介・鑑賞

インターンシップ

学芸員を目指す学生や、美術館活動を支える専門的な人材育成を目的とする。主に大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、年に若干名をインターン生として受け入れている。アート・コミュニケーション事業業務の補佐として従事、現場を通して学ぶ機会を提供している。今年度は2人を受け入れた。



インターンシップの実践研修(Museum Start あいうえのプログラム)

専門的研修会への協力

学芸員対象のエducレーター研修や、大学教員の研究グループ、図工や美術教員で構成される研究部会の研修などに協力。当館の活動の考え方や鑑賞プログラムの具体的な方法について意見交換や共有を行った。今年度は杉並区教員研修、歴史教育研究会への研修協力を行った。

展覧会関連プログラム

当館では、各年度で報道機関などとの共催による大型の特別展を4展、学芸員による自主企画展を1展、公募団体などとの連携展を3展行っている。それぞれの展覧会をより深く理解して楽しんでもらえるように、開催期間中に様々なプログラムを企画して行った。

平成26年度に実施したプログラムは以下の通り。(事業実績一覧はP.59～P.62参照)

1 一般参加プログラム

展覧会の出品作家が自身の作品について語るトークイベントや座談会など。普段は目に触れることの少ない制作過程をはじめ、作品の背景についてなど、興味深いトークが行われた。

2 ファミリー・プログラム

展覧会を親子で楽しめる、鑑賞や造形のワークショップを開催した。特別展会場で貸し出し子ども用鑑賞ツール「とびらボード」(磁気ボード)の貸し出しを継続した。

3 新春プログラム

お正月時期に開催される書の展覧会に関連するプログラムを開催。

4 とびラボ発 展覧会関連プログラム

とびラーによる自主企画

- ・紙芝居プロジェクト
展覧会の内容に合わせたとびラーオリジナル紙芝居の上演。
- ・ぬりえプロジェクト「とびらボードでGO!」
特別展会場入口で貸し出しをしている「とびらボード」に気に入った作品をスケッチし、それをフレームに収めてオリジナルカードを作成。
- ・缶バッジプロジェクト「イロイロとび缶バッジ」
展覧会を見た記憶を小さなキャンバスに見立てた缶バッジの面にスタンプを押したり、絵を描いたりしてデザインし、その場で缶バッジにするワークショップ。
- ・鑑賞プログラム「見楽会」「ヨリミチビジュツカン」
解説型のギャラリートークではなく、その時、その作品を前に感じたことや気づいたことを参加者同士で言葉にして共有しながら作品を鑑賞する会を開催。



とびらボードの貸し出し(ファミリー・プログラム)



イロイロとび缶バッジ(パルテュス展・とびラボ発展展覧会関連プログラム)



楽園への手紙(楽園としての芸術展・とびラボ発展展覧会関連プログラム)

5 特別展ジュニアガイド

中学生以下の子どもたちが展覧会を楽しみ、学ぶ助けとなるジュニアガイドを制作。都内の小・中学校などには事前に送付し、会場でも配布した。当館のウェブサイトからもダウンロードできる。「メトロポリタン美術館 古代エジプト展 女王と女神」には、会場の地図をデザインしたガイドを作成、「新印象派—光と色のドラマ」展では点描などの技法に着目したガイドを作成した。



新印象派展 ジュニアガイド



メトロポリタン美術館 古代エジプト展
ジュニアガイド



美術館たんけんツアー 建築ツアー

当館をより理解してもらうため、2種類の館内ツアーを継続して開催。「美術館たんけんツアー」は、親子を対象にして、美術館のバックヤードを当館学芸員と巡り、公募団体展の作品が搬入されてから展示されるまでを追体験する。1回開催し、9人が参加した。

「建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を知ってもらうツアー。とびラーの案内で、当館のあちこちを散策する。奇数月第3土曜日14時から開催。案内人のオリジナリティーが発揮された、それぞれ独自のツアーを展開。6回開催、のべ参加者数126人。平成26年度は前年度に引き続き、昼の開催に加え、ライトアップされた当館を散策する「トビカン・ヤカン・カIKAN・ツアー」がとびラーからの発案により開催された。12回開催、のべ参加者数223人。また、とびラーによるトビカンケンチク見どころマップvol.1、2、「上野の杜の宝石箱」東京都美術館ヤカン・ミドコロ・スポット」が引き続き配布された。



美術館たんけんツアー



建築ツアー



トビカン・ヤカン・カIKAN・ツアー

アクセス・プログラム

普段は来場者が多く混雑している特別展会場において、障害のある方が安心してゆっくり鑑賞できるように、休日に特別鑑賞会を開催した。事前申し込み制により平成26年度は「バルテュス展」、「メトロポリタン美術館 古代エジプト展 女王と女神」、「ウフィツィ美術館展」、「新印象派一光と色のドラマ」展において各1回ずつ計4回行い、のべ2,764人が参加した。

とびらプロジェクトと連動し、毎回30人程度のとびラーが当日の運営に関わり、プログラムを実現している。展覧会担当学芸員による展覧会解説(手話通訳付き)も企画棟ホワイエ(ロビー階)で行われた。また、とびラーの発案により、弱視の方が作品を拡大して見るができるよう、あらかじめiPadに複数の作品画像をダウンロードして、手元で見られるように展示会場に持参した。



障害のある方のための特別鑑賞会



特別鑑賞会事前研修

調査・研究プロジェクト

国立情報学研究所との共同研究

この共同研究は、アート・コミュニケーション事業の活動成果を一般の方々に伝える効果的な方法を探る取り組みであり、平成24年度より5年間の研究事業である。美術館におけるアーカイブは、作品などのモノの情報を記録対象とすることが多い。一方、この共同研究では、事業の実施内容とともに、体験した人の記憶(鑑賞体験)を記録と発信の対象としている。

今年度は「Museum Start あいうえの『ティーンズ学芸員』」(P.52)の活動を中心に、記録を発信する情報共有環境の研究開発を実施。鑑賞体験のような不定形の対象を記録し一般の利用に供するため、鑑賞体験をデータベース化できる情報登録環境と、アトラウンジ等で利用・閲覧可能なサービスの設計・構築を中心に行った。

共同研究/国立情報学研究所 高野明彦研究室



Museum Start あいうえの『ティーンズ学芸員』トップ画面



「Museum Start あいうえの『ティーンズ学芸員』」コメント画面

アクセス鑑賞プログラム研究会

当館では「障害のある人も何のためらいもなく来館できる美術館となります。」というミッションを実現するべく、アクセス・プログラムとして「障害のある方のための特別鑑賞会」の実施に平成24年度から注力してきた。

とびらプロジェクトと連動し、とびラーがこのプログラムを支え、多くの来館者から感謝の言葉が届く中、さらに個別の障害に対応するべく、聴覚障害者向けには学芸員による展覧会解説に手話通訳を導入し、今年度はとびラーの発案により試験的に展示作品の中から何点かのデータをiPadに取り込み、展示室で拡大させて見ることの手助けを試みた。

加えて、3年目ゼミに参加しているとびラーの発案により、「見えない人と見る建築ツアー」が開催された。見えない人にも、当館の建築をどう伝えるかについて、ミーティングを重ね、ツアーの補助ツールとして、建物の配置がわかる「触れる配置模型」を作成。「新印象派—光と色のドラマ」展の特別鑑賞会と同日に開催。22人が参加した。



iPadの活用による鑑賞サポート



見えない人と見る建築ツアー

アート・コミュニケーション事業 平成26年度実績

平成26(2015)年度アート・コミュニケーション事業のプログラムに参加・関わったのべ人数:32,011人

とびらプロジェクト(P.46~P.49)

項目	内容	開催期間・開催日	数量	参加者数	
				アート・コミュニケータ	一般(外部講師含む)
アート・コミュニケータ養成		平成26年4月~平成27年3月		150	
とびら4期生 2次面接		平成27年3月13日(金)、14日(土)、15日(日)			114
基礎講座 全6回		平成26年4月12日(土)、26日(土)、5月10日(土)、24日(土)、6月7日(土)、21日(土)		418	2
実践講座 鑑賞 全6回		平成26年7月28日(月)、8月4日(月)、18日(月)、9月1日(月)、11月4日(火)、平成27年2月16日(月)		215	
実践講座 アクセス 全5回		平成26年7月6日(日)、27日(日)、8月31日(日)、平成27年2月1日(日)および、以下の日程から1日 6月23日(月)、7月5日(土)、14日(月)、17日(木)、19日(土)、28日(月)、8月6日(水)、7日(木)、16日(土)、11月23日(日)		177	2
実践講座 建築 全6回		平成26年6月14日(土)、28日(土)、8月23日(土)、10月18日(土)、平成27年1月24日(土)、2月21日(土)		151	1
とびらステーション		平成26年10月4日(土)、19日(日)、12月14日(日)、平成27年3月29日(日)		239	1
とびらオープンレクチャー	vol.3 もしかして、おかたづけって芸術のはじまり？ 原作者オーシルさんが語る「キュッパのはくぶつかん」	平成26年5月5日(月)			214
とびらフォーラム	とびらスタイル！で行きましょう。 美術館×大学×とびらのコミュニティデザイン	平成27年2月22日(日)		23	218
とびらボ	とびらの自主的な活動打ち合わせなどコミュニケーションの場 全273回	平成26年4月~平成27年3月		1431	
	館内スタッフ向けミニコミ誌『とびリア』発行	第8号 平成26年7月15日(火) 第9号 平成27年3月29日(日) 第10号 平成27年3月30日(月)	300部 200部 200部		
	大人のあいうえの「ミュージアム・クエスト」 (とびら&友人向け)	平成26年11月30日(日)		11	10
	女子美卒展さんぽ	平成27年3月7日(土)		7	8
	事前勉強会「大英博物館展」	平成27年3月21日(土)		18	
3年目ゼミ	任期満了を迎えるとびらの自発的な活動の場、 および、その活動をサポートするゼミ 全26回	平成26年6月~平成27年3月		182	1
	knock-knock「美術館に行こう！」	平成27年3月29日(金)		6	3
藝大連携プログラム(講義、卒業・修了展)	藝大集中講義(色彩学:日比野克彦) 全3回	平成26年9月25日(木)、26日(金)、28日(土)		27	
	藝大先端芸術科 講義	平成27年1月23日(金)		15	30
	藝大生インタビュー 全8回	平成26年7月~12月		20	11
	日比野克彦×とびら座談会	平成27年1月26日(月)		12	42
	藝大卒展さんぽ(とびらボ発プログラム) 全2回	平成27年1月27日(火)、31日(土)		26	64
	見学会(とびらボ発プログラム) 全2回	平成27年1月26日(月)、29日(木)		18	36

Museum Start あいうえの(P.50~P.53)

項目	内容	開催期間・開催日	数量	参加者数	
				アート・コミュニケータ	一般(外部講師含む)
ミュージアム・スタート・パック 配付数			2,472セット		
あいうえの学校	あいうえのものがたり 全4回	平成26年5月31日(土)、6月15日(日)、29日(日)、7月5日(土)		50	46
	ティーンズ学芸員 全10回連続プログラム	平成26年8月1日(金)、2日(土)、3日(日)、16日(土)、17日(日)、12月20日(日)、平成27年1月6日(火)、7日(水)、3月27日(金)		210	94
	ブレ・プログラム:ティーンズ学芸員(東京大学大学院生)	平成26年7月14日(月)、23日(水)、25日(金)		16	63
	H!! Zai アートラボ 全2回	平成26年8月21日(木)、22日(金)		19	50
	のびのびゆったりワークショップ 全6回連続プログラム	平成26年9月28日(日)、10月12日(日)、11月9日(日)、23日(日)、12月7日(日)		202	118
	放課後のミュージアム 全12回連続プログラム	平成26年7月23日(水)、9月3日(水)、17日(水)、10月1日(水)、15日(水)、29日(水)、11月12日(水)、26日(水)、12月10日(水)、平成27年1月21日(水)、2月4日(水)、18日(水)		120	308
	ホームカミングデー ミュージアムスタートあいうえの	平成27年8月6日(水)		6	27
	ホームカミングデー のびのびゆったりワークショップ	平成26年9月7日(日)		14	11
	ホームカミングデー 放課後の美術館	平成26年12月17日(水)		7	15

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数	
			アート・コミュニケーター	一般(外部講師含む)
あいうえの学校 スペシャルマンデーコース のべ12校	墨田区立小梅小学校(6年生)	平成26年9月8日(月)	16	50
	台東区立金曾木小学校(4年生)	平成26年9月8日(月)	27	63
	足立区立栗島中学校(特別支援学級)	平成26年9月8日(月)	13	27
	足立区立足立入谷小学校(5年生)	平成26年11月10日(月)	6	31
	私立明晴学園小学校(1~6年生)	平成26年11月10日(月)	23	45
	台東区立金竜小学校(3年生)	平成26年11月10日(月)	15	66
	江東区立大島西中学校(2年生)	平成26年11月25日(火)	13	125
	品川区立城南小学校(6年生)	平成26年11月25日(火)	6	52
	羽村市立羽村西小学校(6年生)	平成26年11月25日(火)	10	93
	品川区立浅間台小学校(5,6年生)	平成27年2月23日(月)	16	44
	練馬区立田柄第二小学校(6年生)	平成27年2月23日(月)	12	96
	台東区立東浅草小学校(4年生)	平成27年2月23日(月)	6	58
	練馬区立田柄第二小学校	平成27年3月9日(月)	4	36
	あいうえの学校 平日開館コース のべ16校	都立足立西高等学校(1年生)	平成26年7月30日(水)	12
台東区立根岸小学校(3年生)		平成26年10月7日(火)	14	115
荒川区立第二瑞光小学校(6年生)		平成27年10月31日(金)	9	42
私立玉川学園(中学1年生)		平成27年12月9日(火)、10日(水)、12日(金)	33	229
私立湘南学院高等学校		平成27年1月4日(日)		7
国立東京学芸大学付属高等学校		平成27年1月5日(月)		4
埼玉県立伊奈学園総合高等学校		平成27年1月5日(月)		9
私立星野高校		平成27年1月6日(火)		33
都立深川高校		平成27年1月7日(水)		10
都立一橋高校		平成27年1月7日(水)		6
都立小松川高校		平成27年1月7日(水)		10
台東区立忍ヶ丘小学校		平成27年1月13日(火)		46
荒川区立第二日暮里小学校		平成27年2月20日(金)	12	19
埼玉県立伊奈学園中学校		平成27年3月5日(木)	12	85
都立多摩科学技術高等学校		平成27年3月19日(木)	18	23
豊島区立南池袋小学校		平成27年3月20日(金)	18	69
あいうえの日和	東京都美術館での開催 全11回	平成26年7月~平成27年1月		411
	「Museum Start あいうえの」連携各館での開催 全19回	平成26年7月~平成27年1月	8	317
学び合いカフェ	とびラーのプログラム事前準備		452	21
	保護者のためのプログラム		30	247

学校連携(P.54)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数	
			アート・コミュニケーター	一般(外部講師含む)
ティーチャーズ・デイ 全4回		平成26年6月13日(金)、8月8日(金)、10月31日(金)、 平成27年3月20日(金)		111
教員研修	杉並区教員研修	平成26年8月20日(水)		7
	歴史教育研究会	平成26年8月27日(水)	2	29
学校団体来館対応	埼玉県立川越初雁高等学校	平成26年5月30日(金)		17
	宮城学院女子大学	平成26年7月19日(土)		12
観覧料免除申請(都内教育 機関) のべ69校	バルテュス展		5校	273
	メトロポリタン美術館 古代エジプト展 女王と女神		19校	186
	ウフィッツ美術館展		19校	1,370
	新印象派—光と色のドラマ		19校	662
	「楽園としての芸術」展		5校	43
	都美セレクション 新鋭美術家 2015		2校	131

展覧会関連プログラム(P.55)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数	
			アート・コミュニケータ	一般(外部講師含む)
【バルテュス展】				
記念講演会	全3回	平成26年4月19日(土)、20日(日)、27日(日)		525
とびらボ発プログラム	とびらボードでGO!	平成26年6月8日(日)	9	50
	イロイロとび缶バッジ	平成26年6月14日(土)、15日(日)	29	486
	紙芝居「ニコラの不思議な誕生日」上映	平成26年6月15日(日)、18日(水)、22日(水)	10	282
	事前勉強会	平成26年4月26日(土)	38	
とびらボードの貸出		平成26年4月19日(土)～6月22日(日)	1,111件	
スタッフ鑑賞研修会		平成26年4月24日(木)	17	
【公募団体ベストセレクション 美術 2014】				
アーティストトーク 全4回	各日9作家によるリレートーク	平成26年5月4日(日)、10日(土)、18日(日)、24日(土)	13	1875
とびらボ発プログラム	見学会(とびラー・スタッフ向け)	平成26年5月8日(木)、16日(金)	27	5
スタッフ鑑賞研修会		平成26年5月8日(木)	20	
【メトロポリタン美術館 古代エジプト展 女王と女神】				
記念講演会		平成26年7月19日(土)		133
とびらボ発プログラム	ヨリミチビジュツカン	平成26年9月5日(金)	12	2
	とびらボードでGO!	平成26年9月13日(土)	9	71
	イロイロとび缶バッジ	平成26年9月15日(月)	21	300
	事前勉強会	平成26年5月10日(土)	39	3
とびらボードの貸出		平成26年7月19日(土)～9月23日(火)	3,334件	
ジュニアガイドの配布	都内小・中学校1,924校に発送		7,782部	
	展覧会会場での配布	平成26年7月19日(土)～9月23日(火)	30,500部	
スタッフ鑑賞研修会		平成26年7月24日(木)	20	
【「楽園としての芸術」展】				
記念講演会		平成26年7月26日(土)		146
上映会	しょうぶ学園ドキュメンタリー映画	平成26年10月1日(水)		220
とびらボ発プログラム	「楽園」への手紙	平成26年8月10日(日)、20日(水)、30日(土)、9月10日(水)、20日(土)、30日(火)、10月5日(日)	42	360
	ヨリミチビジュツカン	平成26年9月19日(金)	11	11
	事前勉強会	平成26年6月21日(土)	39	
スタッフ鑑賞研修会		平成26年7月31日(木)	10	
【ウフィッツイ美術館展】				
記念講演会		平成26年10月12日(土)、11月8日(土)、11月22日(土)		611
とびらボ発プログラム	とびらボードでGO!	平成26年11月22日(土)、29日(土)	21	93
	事前勉強会	平成26年9月14日(日)	24	
とびらボードの貸出		平成26年10月11日(土)～12月14日(日)	1,618件	
スタッフ鑑賞研修会		平成26年10月16日(木)	25	
【TOKYO 書 2015 公募団体の今】				
演奏会	橘雅友会による雅楽演奏会	平成27年1月4日(日)		115
アーティストトーク 全3回	各日6作家によるリレートーク	平成27年1月10日(土)、11日(日)、12日(月)	13	1780
とびらボ発プログラム	書の勉強会	平成26年7月19日(土)、20日(日)	36	
スタッフ鑑賞研修会		平成27年1月8日(木)	13	
【新印象派一光と色のドラマ】				
講演会	記念講演会	平成27年2月7日(土)、14日(土)		431
	モーニングレクチャー 全1回	平成27年3月23日(月)		118
	イブニングレクチャー 全4回	平成27年1月30日(金)、2月13日(金)、27日(金)、3月13日(金)		388
	科博「ヒカリ展」とのコラボ企画	平成27年2月1日(日)		157
とびらボ発プログラム	ヨリミチビジュツカン	平成27年2月13日(金)、27日(金)	18	20
	イロイロとび缶バッジ	平成27年3月7日(土)	24	233
	とびらボードでGO!	平成27年3月8日(日)	8	54
	事前勉強会	平成26年12月13日(土)	20	
とびらボードの貸出		平成27年1月24日(土)～3月29日(日)	1,591件	
ジュニアガイド	都内小・中学校2,177校に発送		32,200部	
	会場配布	平成27年1月24日(土)～3月29日(日)	10,500部	
スタッフ鑑賞研修会		平成27年1月29日(木)	11	
【都美セレクション 新鋭美術家 2015】				
アーティストトーク 全2回	2日間、計5作家によるリレートーク	平成27年2月21日(土)、28日(土)	7	300
ギャラリートーク 全2回		平成27年3月15日(日)		170
とびらボ発プログラム	見学会	平成27年3月8日(日)、11日(水)	13	19
スタッフ鑑賞研修会		平成27年2月19日(木)	4	

美術館たんけんツアー・建築ツアー(P.56)

項目	内容	開催期間・開催日	数量	参加者数	
				アート・コミュニケーター	一般(外部講師含む)
美術館たんけんツアー		平成26年10月26日(日)		3	9
建築ツアー	通常ツアー(奇数月第3土曜日開催) 全6回	平成26年5月17日(土)、7月19日(土)、9月20日(土)、11月15日(土)、平成27年1月17日(土)、3月21日(土)		67	126
	トピカン・ヤカン・カイカン・ツアー(とびラボ発プログラム) 全12回	平成26年8月29日(金)、9月12日(金)、10月24日(金)、11月1日(土)、21日(金)、12月6日(土)、14日(日)、平成27年1月30日(金)、2月13日(金)、27日(金)、3月20日(金)、27日(金)		115	223

アクセス・プログラム(P.57)

項目	内容	開催期間・開催日	数量	参加者数	
				アート・コミュニケーター	一般(外部講師含む)
障害のある方のための特別鑑賞会 準備研修講座		平成26年5月12日(月)		10	
障害のある方のための特別鑑賞会	バルテュス展	平成26年5月26日(月)		31	570
	メトロポリタン美術館 古代エジプト展 女王と女神	平成26年8月25日(月)		28	731
	ウフィッツイ美術館展	平成26年12月8日(月)		31	814
	新印象派—光と色のドラマ	平成27年3月9日(月)		37	667

調査・研究プロジェクト(P.58)

項目	内容	開催期間・開催日	数量	参加者数	
				アート・コミュニケーター	一般(外部講師含む)
視覚障害のある方のためのトピカン建物ツアー		平成27年3月9日(月)		7	22
JMMA 講演会	「アイデンティティー危機時代のミュージアム」	平成26年12月5日(金)		2	42
上野教育普及担当者会		平成26年12月16日(火)			36